

適切でないと考えていますので、将来、民営化に向けて再度積極的な検討を行っていく必要があると考えています。

「いじめ問題」対応策の検討について

櫻谷議員

親や先生に見えにくい「いじめ」。教育委員会の調査では、いじめはないという結果が出ているとのことですが、私は見つけられていないと判断します。

もし、いじめがあった場合、どのように対処されるのか。いじめ問題に本気で立ち向かう、担任や養護教員だけでなく、教員全員で向き合うプロセスを作り出す取り組みを提案します。

児童生徒一人一人がまわりで認められているか、嫌な思いをすることはないか、悪口を言われているか、本人が傷つくようなうわさ話が聞こえてこないか、不登校になる前に、命に係わ

る案件になる前に職員一体となった取り組みが不可欠だと思っています。いま不登校の生徒は何人いますか、全国でも大きな問題になっているいじめについて、どのような課題と対策を講じているのかお聞きします。

福井町長

昨年の大津市の中学2年生のいじめ苦の自殺以降、学校におけるいじめが大きな社会問題となっています。生徒の単なる喧嘩から、陰湿ないじめ、一方的な暴行、恐喝までと聞いています。学校は友情を育み、勉学の向上、スポーツによる体力の増進に努めるところであり、いじめなどあつてはならないところです。

そんな場所にしなければならぬとの教師の認識から、基本的に教師の方はいじめを認めたくない、認められないのだと思います。

一方、親としても我が子がいじめられるような子でない、いじめられるはずがないという過信から、その発見が遅れているのではな

いかと思います。

町としても、教育委員会や学校任せにするのではなく、今後あらゆる機会を捉え、いじめの兆候がないか注視していきたいと考えています。

峯野教育長

中学校の不登校の数は4名で、3年生が3名、1年生が1名、小学校はいません。しかし、不登校気味のいわゆる予備軍の子どもが1名いると聞いています。

学校図書について

一山 稔 議員

学校図書を活用し、児童

生徒の授業支援を行う学校が増えています。小学校が統合し小中一貫教育がはじまりますが、これを機会に学校図書の見直しも大事なことでないかと思ひます。

ある学校では、指導員を臨時職員として採用し、購

小学校ではいじめの兆候やサインを早期に発見できるようにアンケートの見直しを図り、よりきめ細かな形で新年度から実施する予定です。

いじめは、どの学校でもどの子にも起こり得るという認識で、今後も学校との連携を密にしながら、いじめを生まない環境づくりに向け、取り組みの一層の充実を図っていききたいと考えています。

峯野教育長

学校図書館の運営や指導は担当教諭が担任や授業をこなしながら行っています。資格を持つ教員の数が少なく、採用は難しいので、町立図書館の検索システムを充実させ、小中学校の読書活動や調べ学習に有効に活用されるよう努めたい。

子ども図書制度は、有意義な制度であると認識しているが、様々な課題があると思います。先進地の取り組みを調査してみたい。

併設型の小中一貫教育がスタートします。そのことを子どもたちの読書活動の充実を図る機会ととらえ、